

中尾小だより

知・徳・体の調和のとれた
心豊かな児童の育成

学びいっぱい 優しさいっぱい 元気いっぱい

〒336-0932 さいたま市緑区中尾2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL 048-873-0216 FAX 048-810-1120

節分に寄せて ～ 心の中の「鬼」と向き合う季節 ～

校長 石田 成夫

1月も半ばを過ぎてから、厳しい寒波が日本列島に居座り、日本海側を中心に大雪をもたらしています。昔から「子どもは風の子」と言われますが、冷たい風に頬を赤くしながらも、校庭を駆け回り、友達と笑い合い、夢中になって遊ぶ中尾っ子たちの姿には、寒さに負けないうたくましさを感じます。大人が思う以上に、子どもたちは日々の生活の中で多くのことを吸収し、季節の厳しささえ力に変えて、大きく成長しているようです。

さて、今年2月4日が立春となります。暦の上では立春が一年の始まりとされ、節分はその前日、「季節を分ける日」として大切にされてきました。季節の変わり目には体調を崩しやすく、昔の人々はその不安を“鬼”という姿に重ね、豆をまいて追い払うことで、新しい季節の無事を願いました。豆には「魔(ま)を滅(め)する」という意味が込められているとも言われていますが、これらの伝統行事には、自然とともに暮らしてきた人々の知恵が息づいています。

また、節分の“鬼”は、単に怖い存在であるだけでなく、昔の人々にとっての不安や、弱さの象徴でもありました。現代に生きる私たちに置き換えてみても、心の中に潜むさまざまな“鬼”の存在が思い浮かびます。たとえば、すぐにあきらめてしまう「弱気の鬼」、友達に素直に謝れない「意地っ張りの鬼」、やるべきことを後回しにしてしまう「なまけ鬼」。節分は、こうした自分の中の“直したいところ”に気づき、乗り越えていくきっかけにもなります。

2月は、学年のまとめが近づき、子どもたちが一年間の成長を振り返る大切な時期です。できるようになったこと、挑戦していること、まだうまくいかないこと。それらを見つめながら、進級や卒業に向けて、気持ちを整える節目でもあります。節分に込められた「これまでの自分を乗り越えて、成長する」という願いは、まさにこの時期の子どもたちの姿と重なります。学校においても、子どもたちが自分の成長を実感し、前向きな気持ちで次のステップに進めるよう、日々の学習や生活の中で丁寧に支えていきたいと考えています。

節分は家庭や地域で行われてきた行事であり、世代を超えて楽しむ姿が見られます。家族で豆をまいたり、恵方巻を囲んだりするひとときは、子どもたちにとって、安心感や家族とのつながりを感じられる大切な時間です。こうした文化を受け継ぐ営みは、子どもたちに「自分は地域の一員である」という意識を育ててくれます。学校としても、家庭や地域とともに子どもたちの成長を見守り、支え合う関係を大切にしていきたいと思えます。季節はまもなく春を迎えます。子どもたちが心の中の“鬼”を滅し、新たな成長に向かっていけるよう、学校全体で力を合わせてまいります。どうぞ引き続き、温かな励ましとご協力をお願いいたします。

さいたまヨーロッパ野菜料理コンテスト受賞献立給食【動画配信】

11月4日に、標記の受賞献立給食を子どもたちに提供しました。その時の様子や、受賞した児童のインタビュー、栄養教諭による解説などが、さいたま市の公式YouTubeチャンネルで配信されておりますのでお知らせします。

下記のURLまたは右のQRコードから、ぜひご覧ください!!

URL : <https://youtu.be/jgJm7N1let0>



